

船橋県税事務所長賞 税のある暮らし

船橋市立旭中学校

第二学年

内田 優 菜

三年前の八月十日、富山県に住んでいる私の母方の祖父が、夜、自宅で倒れました。祖母が異変に気付き、すぐに救急車を呼びました。救急車は約十分で到着しました。救急隊の方の話によると、おそらく脳梗塞だということ、すぐに大きい病院に搬送してくれました。そして、緊急の手術をして、何とか一命を取り留めました。後遺症で右半身に少し麻痺が残りました。その後三ヶ月の入院、リハビリを経て今は自宅で過ごしています。

祖母は、その時のことをとても時間が長く感じたと言っていました。当時、家には祖父と祖母の二人だけで、体の小さい祖母は、倒れた祖父を前にして動かすことも、体を起こすことさえできなかったと言っていました。そんな中、通報から十分で駆けつけてくれた救急隊がどんなに心強かったことでしょう。

慌てる祖母を落ち着かせ、手際よく適切な処置をしてくれて、病院まで迅速に搬送してくれました。おかげで、すぐに手術ができました。私の大好きな祖父とまた、いろいろな話をしたり、庭でバスケットボールをしているところを見てもらったり、家族みんなでわいわいと楽しく食卓を囲むこともできます。

私の母は、富山県から遠い船橋市で暮らしているのですが、両親に何かあってもすぐに駆けつけることはできません。祖父が倒れた日も心配しかすることができず、大変もどかしい思いをしたことでしょう。

遠く離れていても、救急車を呼んだらすぐに駆けつけてくれる。救急隊の方も適切な判断で病院まで搬送してくれる。この安心感はずいぶんあります。祖父や祖母だけでなく、離れて暮らす母、そして父や私たち兄弟にとってもかけがえのないものとなっています。

私は、このことをきっかけに、もし税金がなかったら救急車を呼ぶのにいくらかかるかを調べてみました。日本では、救急車の運用は行政サービスのひとつとされており、その費用は税金でまかなわれています。そのため、救急車は原則無料で利用ができます。ちなみに救急車が一回出場するのに必要な費用は、諸経費込みでおよそ四万五千円です。

また、税金のない国では、救急隊の人員費や救急車のガソリン代、メンテナンス代、救急車内に設置されている慰労機器や物品の費用を全て自己負担となり、病院に搬送前にお金をまず請求されます。他にも、病院で支払う治療費も今よりとても高くなるし、家庭から出るゴミもお金を払わないとゴミ処理場に持って行ってくれなくなってしまう。交番の警察官に道を聞くのも有料です。救急車のことから、税金について詳しく調べ、税金は私たちの生活にとっても重要なものだということがわかりました。

私は、この夏富山県に帰省しました。久しぶりに会う祖父と祖母は、前と同じようにあたたかく迎えてくれました。これから先何年も何年も元気に暮らしてほしいと思います。